



学校だより

令和5年7月1日
横浜市立太田小学校
7月号

あつまって かおを あわせて

校長 丸山 稔

今年は全校児童が体育館に集合して朝会を行っています。この3年間というもの、全校児童が一堂に会する機会がなかったので、初めは整列するのにも、話を聞く構えをつくるのにもとても時間がかかって大変でした。すると、その様子を見た6年生が、下学年児童を教室に迎えに行き体育館まで引率し整列の手助けをする役を自分から買って出てくれました。そのお陰もあって、最近では、準備に時間がかからなくなってきました。

実は、今の子どもたちにとって、300人以上の子どもが、それも休み明けに、一つ所に集まってみんなで話を聞くなどということは、それほどたやすいことではありません。それでも一堂に会して対面で朝会を行うのは、得られるものが大きいからです。例えば、低学年の子どもたちが高学年の子どもたちの行動や話を聞く姿勢を見て、その空気を肌で感じて学んでいる姿が見られます。また、対面のよさは何と言っても、話し手と聞き手が互いのリアクションを直にやり取りできることです。朝会では、6年生が司会を務めたり、発信したいことがある子どもたちが全校に呼び掛けたりしますが、放送朝会では、話し手には聞き手が見えず、何の反応もないカメラに向かってしゃべり続けるしかありませんでした。カメラに向かってしゃべるとするのは、大人でも、とても難しいものです。人と人とのコミュニケーションにとって言葉以外の眼差しや表情、身振り手振り、笑いやざわめき、呼吸や相づち、感嘆などのリアクションが、どれだけ大切かがわかります。そして、同じ経験をして、ひとと一緒に心を動かすこと。これは、自尊心やレジリエンス(折れない心)を育むためにも、とても重要だと言われています。



音楽朝会で「歌はともだち」を歌う代表ソリストと全校児童

今年は、毎月最後の朝会を音楽朝会にしています。教員が今の子どもたちにぜひ歌って欲しいとの思いで選んだ「今月の歌」を300人で歌います。多少音が外れようが、そんなことは何でもありません。口を大きく開けておなかの底からのびのびと歌えば、からだもこころも音楽にのって自然に揺れ出し、300人の歌とこころが響き合います。これも、学校ならではの貴重な経験だと思っております。

